

訪問ガイド 20

ウィンザー城

ウィンザー・カ

https://windsor-castle.visit-tickets.com/ja/・優先入場チケット＆料金



歴史 & エクスペリエンス

起源 & 歴史

千年の君主権

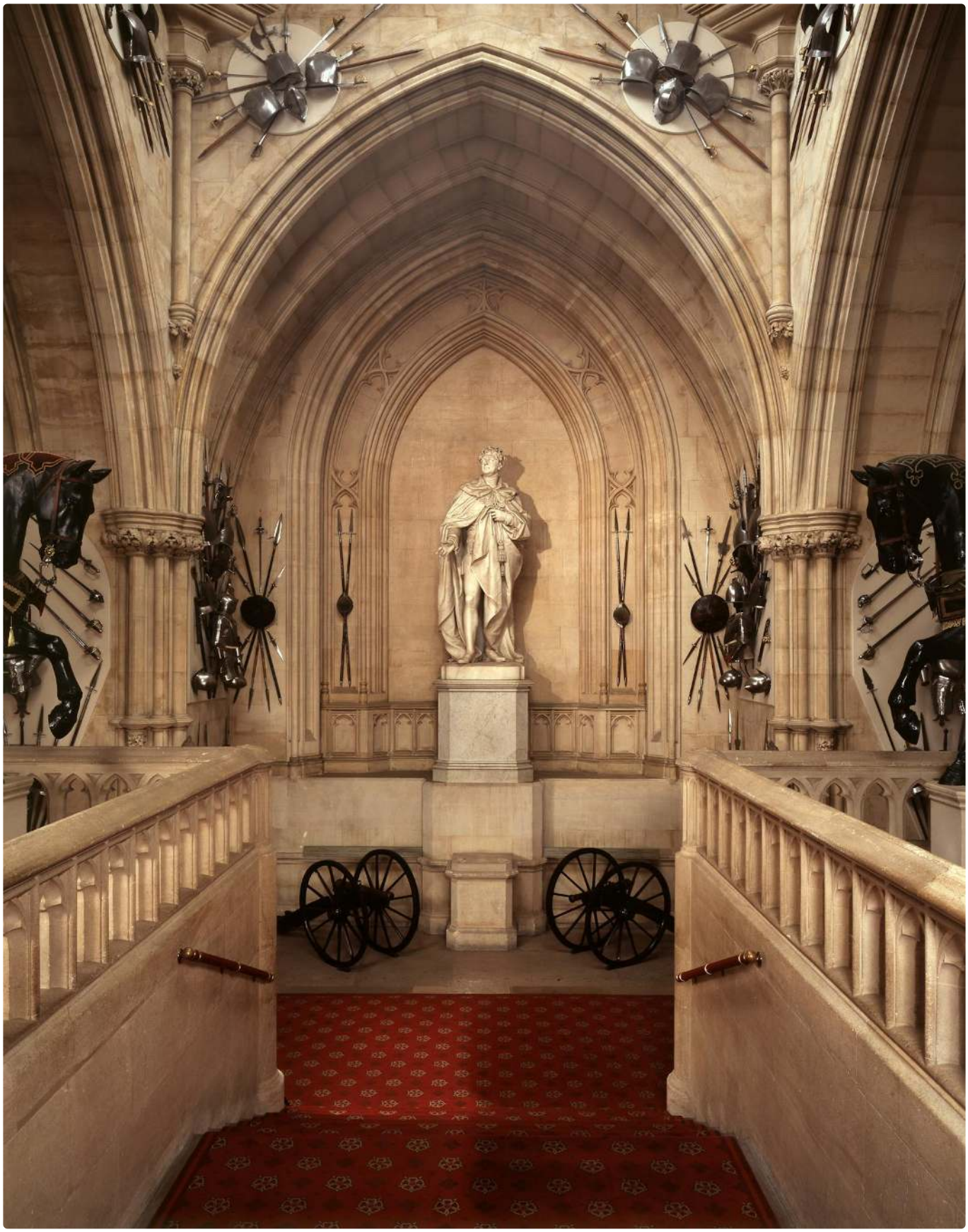
GOOGLE 4.7 ★★★★★ 64 801 レビュー

TIQETS 4.7 ★★★★★ 2 225 レビュー

1066年、イングランド征服の直後、ウィリアム・ザ・コンケラーはテムズ川を支配するため、この戦略的要衝に要塞の建設を命じた。 クレイで築かれた土塁を備えた、もともとノルマンディーの簡素な集落にすぎなかったものが、急速に主要な軍事拠点へと変貌を遂げる。 最初の柵は、大規模な石造りの壁によって強化され、ヨーロッパで最も古い無断絶居住宮殿の基礎を築いた。 13世紀、ヘンリ3世の治世において、この要塞は徐々に豪華な邸宅へと変貌を遂げていった。 王は城壁の内部に豪華な宮殿を建設し、要塞から王家の住居への移行の始まりを示した。 エドワード3世はこの事業を引き継ぎ、その地を中世イングランドで最も高額な世俗的建設プロジェクトと見なされるものへと変貌させた。そこではすでに防衛機能と威信が融合されていた。 城の歴史は王族の悲劇と切り離すことができない。 イングランド革命の期間中、この建物は議会軍の司令部として機能し、処刑前にチャールズ1世を囚人として収容したこともある。 その後、チャールズ2世の治世において、建築家ヒュー・メイが建物の大部分を再建し、バロック様式の豪華な内装を創り上げ、王政復古期の趣向を反映した。 18世紀、相対的に放棄されていた時期を経て、ジョージ3世とジョージ4世は莫大な費用をかけて宮殿を改修した。 それらはウィンザーに現在のロココ様式とゴシック様式の外観を与え、ジョージアン芸術の最も洗練された表現として位置づけている。 今日、500人以上の人々がまだこれらの壁の中で暮らし、働きながら、千年にわたる伝統を継承しています。

体験

ウィンザーの門をくぐった瞬間、雰囲気が劇的に変わります。 もはや単なる博物館ではなく、生きた邸宅の中心にいます。 古いステンドグラスを通して自然光が差し込み、四世紀の歴史を刻んできたタペストリーを照らしている。 古い石畳の上の足取りは、あなたに先立つ君主たちの残した響きのように反響する。 見学は、しばしばその場所のスケールに対する驚異的な感覚から始まります。 この建築は、ゴシック様式、バロック様式、モダン様式を調和して融合させ、独自の美意識を生み出している。 歴史の重みをすぐに感じると同時に、今日もなお王族の暮らしが息づくこの場所の温もりも伝わってくる。 英国のラグジュアリーに完全に浸る体験であり、最小限のシャンデリアから最大級の絵画に至るまで、すべての細部が権力と文化の物語を語っている。



訪問の準備

実用的な情報

住所
ウィンザー、バークシャー郡・電車: ウォーターローまたはパディントン(直通線)、その後徒歩5分。

開館時間
火曜日と水曜日は休館です。季節によって営業時間が異なるため、訪問前にご確認ください。

料金
38.34€から。年齢に応じて子どもは無料(オプションを確認してください)。{promo}。

所要時間
寝室、チャペル、庭園をゆっくり見学するには、現地での滞在時間を2時間30分から3時間確保してください。入場券をお忘れなく。

写真撮影
ステート・アパートメントおよびセント・ジョージズ・チャペル内では写真撮影が禁止されています。その他の場所では規則に従って撮影可能です。カメラを取り出す前にご確認ください。

対象者
ファミリーやカップルに最適です。コースは敷石で緩やかな起伏があり、歩けるお子様にも適しています。見学には快適な靴の着用をお勧めします。

アクセス方法

アクセス & 交通手段

地下鉄
: Riverside Rail Station (Stop RR) — 3 min à pied
ロンドンヒースロー空港 (31 min)・ロンドンガトウィック空港 (119 min)

バス
: Riverside Rail Station (Stop RR) — 3 min à pied
ロンドンヒースロー空港 (50 min)・ロンドン・ガトウィック空港 (196 min)

自動車
ロンドン・ヒースロー空港 (38 min)・ロンドン・ガトウィック空港 (160 min)

自転車
ロンドン・ヒースロー空港 (50 min)・ロンドン・ガトウィック空港 (219 min)

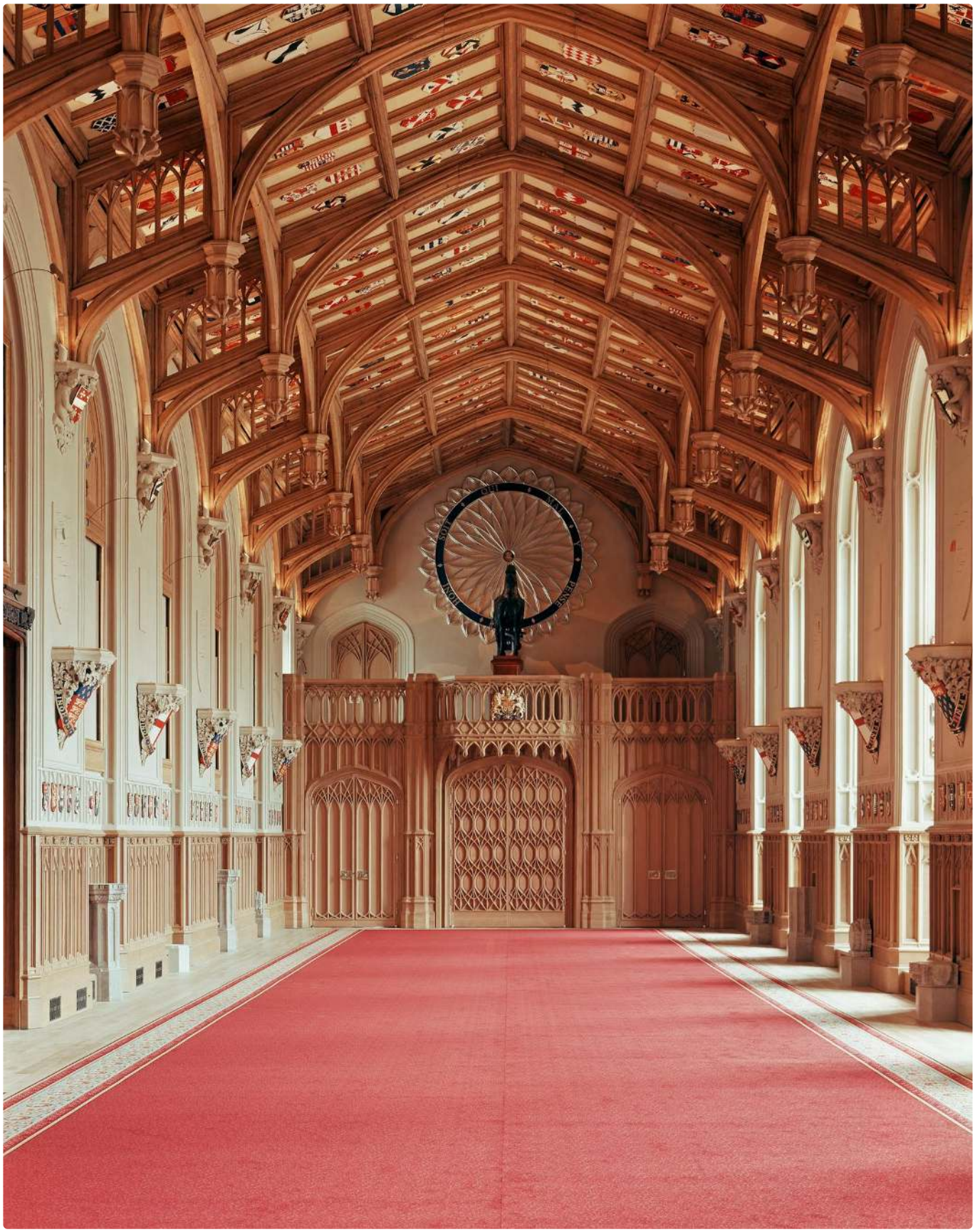
LOCALISATION

Où se trouve ウィンザー城 ?



📍 Windsor — SL4 1NJ ウィンザー

🌐 51°29.034′ N, 0°36.264′ O



組織

領地の構造を理解する

0階（1階）：国賓用居室

ここが一般公開の見学エリアの中心です。ジョージ3世と4世の時代に改装された国賓用居室は、豪華なロココ様式とバロック様式を特徴としています。王立コレクションの名作、特にファン・ダイクやルーベンスの肖像画などを鑑賞できます。装飾は比類のない豊かさを持ち、描かれた天井画や当時のカーテンが施されています。

1階：半公式応接間とドールズ・ハウス

このフロアでは、王室のより親密な生活に触れることができます。半公式応接間（Semi-State Rooms）は、公式の謁見や外交的な晩餐会に使用されます。また、ここには有名なメアリー王女のドールズ・ハウスがあり、その驚くべき精密さで建築ミニチュアとして大人も子供も魅了します。細部まで信じられないほど繊細に再現されており、城の各部屋を忠実に縮小した姿を見ることができます。

外観：サン・ジョルジュ礼拝堂と庭園

建築上の最高点は、15世紀に完成した垂直ゴシック様式の傑作であるサン・ジョルジュ礼拝堂です。その内部には見事な彫刻とステンドグラスが飾られています。外側では、王立庭園からラウンドタワーや周囲の公園へと素晴らしい眺望が広がります。ここは、施設を離れる前に写真を撮り、自然を楽しむのに最適な場所です。



必見スポット

選択

城の絶対的な宝物

01 礼拝堂

セント・ジョージ礼拝堂

歴史家のジョン・マーティン・ロビンソンによって、イングランドのゴシック建築における最も偉大な成功の一つと見なされている。15世紀に完成し、その高さやステンドグラスの明るさで人々を魅了する。1485年以降、イングランド国王の戴冠式が行われる場所である。ここでは卓越した音響効果が得られ、瞑想に適している。

> 💡 この礼拝堂には多くの君主の墓が含まれており、ヘンリー8世とアン・ボレイン、そしてビクトリア女王の墓も含まれている。

02 セミステート・ルームス

クイーン・メリーのドールズ・ハウス

1924年に夫のジョージ5世からメリー女王に贈られたこのドールズ・ハウスは、職人技の粋を凝らした傑作です。当時最高の職人たちによって建造され、高さは約3メートルに達します。各部屋には極細工のミニチュア調度品が配置されており、1920年代のアリストクラットな生活様式を反映しています。

> 💡 この家の建設には2年半を要し、ローズウッドや象牙といった高級素材が使用されました。

03 国営邸宅

国営邸宅

19世紀に改修されたこれらの部屋は、現在も公式な儀式に使用されています。ヨーロッパ絵画の傑作が収蔵されており、特にレンブラントやカナレットの作品が目立ちます。装飾にはバロック様式とネオゴシック様式の要素が組み合わされ、王族の豪華な雰囲気を醸し出しています。ここは王室の主要な接待場所です。

> 💡 グレートホール（大広間）は1992年の火災後に修復され、複数の塗料の下に隠されていた中世のフレスコ画が明らかになりました。

04 中庭

円塔

城山の頂上に位置するノルマン朝の旧本丸は、この城で最も古い遺構です。その威厳ある姿が敷地全体を支配しています。19世紀には、より風情のある外観を与えるために建築様式が改変されました。現在では王室文書館が収蔵されており、敷地のパノラマビューを楽しむことができます。

> 💡 この塔は、19世紀に建築家ジェフリー・ワイアットヴィルによって9メートル増築され、街からの視認性を高めるために行われました。

05 VAN DYCK, RUBENS, REMBRANDT 公式応接間

王立絵画コレクション

この城は、世界で最も重要なコレクションの一つである王立コレクションの重要な一部を収蔵しています。王室の公式肖像画やヨーロッパの巨匠たちの作品をご覧いただけます。作品の質はロンドンの主要な美術館に匹敵します。各絵画は王朝の歴史の一側面を物語っています。

> 💡 一部の絵画は1992年の火災から、館外での保管により生き延びた一方、他の作品は丁寧に修復されました。

06 庭園

王立庭園

城を囲むように広がる庭園は、緑豊かで静謐な景観を提供しています。王室のスタッフによって細心の注意を払って手入れされています。敷石の小道では、外装建築を鑑賞しながら散策を楽しむことができます。人混みを避けて自然を満喫するのに最適な場所です。

> 💡 庭園には、異なる王朝の下で植栽された歴史的な区画が含まれており、英国の造園趣味の変遷を示しています。

07 ホースシュー・クロイスター

馬蹄形回廊

この中世の回廊は13世紀に建てられ、内庭を控えめな優雅さで囲んでいます。尖頭アーチが静かな瞑想を誘います。壮麗な礼拝堂の喧騒から離れた、落ち着いた通過空間であり、聖ジョージ礼拝堂と結びついた修道院生活の一瞥を提供します。

> 💡 この回廊は数世紀にわたり、エルサレムの聖ヨハネ騎士団の修道士たちによって出会いと祈りの場所として使用されてきました。

08 下城砦

ヘンリー8世の門

この壮大な入口は、城の下部への移行を示しています。チューダー朝におけるこの場所の軍事的な重要性を物語っています。古い石には、過ぎ去った世紀の痕跡が残されています。遺跡の探訪において、これは強力な視覚的なランドマークです。

> 💡 この門は最近修復され、後から加えられたものによって隠されていたことが多いオリジナルの彫刻の詳細を引き立てるようになっています。

アドバイス

王宮訪問を適切に準備する

タイミング

ご予約の時間帯の少なくとも30分前に到着してください。セキュリティチェックは厳格で、空港を思い起こさせるほどです。特に繁忙期には注意が必要です。混雑する週末は避け、より落ち着いた体験のために木曜などの平日を選ぶことをお勧めします。

入場券

必ず事前にオンラインで予約してください。チケットにサン・ジョルジュ礼拝堂と庭園が含まれているか確認してください。一部の基本料金では、公式庁舎のみが対象となる場合があります。チケットは返金不可ですが、条件付きで交換可能です。

見学ルート

国賓用邸（State Apartments）から始まり、聖ジョージ礼拝堂で締めくくることをお勧めします。この順序により、荘厳かつ精神的な高揚感の中で訪問を終えることができます。逆の順序は効果が薄く、礼拝堂こそが本見学における建築上のハイライトだからです。

写真

スマートフォンを機内モードに設定するか、防水バッグに入れてください。国営住宅とサン・ジョルジュ礼拝堂では写真撮影が厳禁です。ルールが緩やかな庭園や外観のファサードでの撮影をお楽しみください。

休憩

メインエントランス付近のカフェやウィンザー村でコーヒーブレイクを計画してください。可能であれば、城内のダイニングルームでの食事は避けた方がよく、スペースが混雑していることが多いです。パブ「ザ・クイーンズ・ヘッド」は、本格的な英国料理を楽しむのに最適な選択肢です。

子ども

クイーン・メリーのドールズ・ハウスは子どもにとって見逃せないスポットです。古い石畳や緩やかな坂道を含むルートがあるため、歩きやすい靴を準備してください。城は家族連れに適していますが、学校団体の行列には注意が必要です。

オーディオガイド

城の複雑な歴史を理解するためには、オーディオガイドの利用を強くお勧めします。作品や歴史的出来事に関する詳細な背景情報を提供します。王たちの逸話を一つも逃さないよう、特に「ステート・アパートメント」での鑑賞をおすすめします。

快適さ

英国の気候は変わりやすいので、軽量な防水ジャケットをお持ちください。曇天でも、庭園を散策すれば素晴らしい景観が広がります。現地での実際の歩行時間は2時間30分から3時間程度かかるため、適切な靴は必須です。



よくある質問

よくある質問

ウィンザー城はどの日に開いていますか？

城は火曜日と水曜日を除く毎日開館しています。セント・ジョージズ・チャペルは日曜日は観光客に閉鎖されています。ロンドンからの旅行を計画する前に、公式サイトで具体的な営業時間をご確認ください。

チケットは事前に予約する必要がありますか？

はい、特にハイシーズンには行列を避けるためにオンライン予約を強くお勧めします。空港のような厳重なセキュリティチェックがあるため、時間がかかる場合があります。信頼できるプラットフォームでチケットを購入し、希望時間帯を確保してください。

ウィンザー城のチケットはどこで購入できますか？

公式サイトまたは信頼できるアフィリエイトプラットフォームで購入できます。標準料金は38.34€からです。セント・ジョージズ・チャペルや庭園もすべて見学したい場合は、チケットに含まれていることを確認してください。

グループ割引はありますか？

多くの場合、10名以上のグループ向けに特別料金があります。チケット窓口に直接お問い合わせいただくか、オンライン予約時にオプションをご確認ください。これにより、組織的なツアーの一人あたりの費用を削減できます。

城内で写真を撮れますか？

いいえ、ステート・アパートメントおよびセント・ジョージズ・チャペル内では写真や動画の撮影が厳禁です。庭園や一部の屋外エリアでは撮影が可能です。忘れないように、携帯電話を機内モードに設定しておくとよいでしょう。

ご存知ですか？

エピソード＆トリビア

劇的な火災

1992年、深刻な火災により城の大部分が損傷した。その後に行われた大規模な再建は1990年代に完了した。この出来事は建物の歴史に大きな印を残し、歴史的な真実性を尊重しながら一部の設備を近代化することができた。

現役の居住

現在も500人以上が城の中で生活し、働いています。王室のメンバー、サービススタッフ、事務職員を含め、ウィンザーは依然として活気ある生活の場です。そのため、季節や王室行事に応じて、一部のエリアが一般公開から閉鎖されることがあります。

戦争の避難所

第二次世界大戦中、この城はロンドンの爆撃の際に王室の避難所として使用されました。その戦略的な位置と頑丈な地下通路により、安全なシェルターとなりました。この時期は、王政とイギリス国民との絆を強固なものにしました。

架空建築

建築家ウィリアム・ホイットフィールドは、この城の建築を「確かな架空性のある美学」として描写している。絵画的でゴシック調の形態は、そこに劇的な演目が上演されているかのような感覚を生み出す。にもかかわらず、その歴史的な豊かさのおかげで、この城はヨーロッパ最大の宮殿の一つとして位置づけられている。

博物館周辺

城の見学後、チャームあるウィンザーの村で一日をさらに楽しんでください。 目の前の川沿いには、世界で最も名高い学校の一つであるイートン・カレッジがあり、その庭園からは城を一望できます。 本物のグルメなひとときを過ごしたいなら、歴史あるパブ「The Queen's Head」へ。温かい雰囲気の中で、伝統的なイギリス料理をお楽しみいただけます。 まだ体力が残っていれば、ウィンザー・グレートパークの静かな遊歩道に足を踏み入れてみてください。テムズ川沿いを散歩しながら食後の消化を促すのに最適な広大な緑地です。その後、ロンドンへ戻る列車に乗る前に、ぜひお楽しみください。



ウィンザーを離れることは、イギリスの魂の一部を自分の中に抱えていくようなものだ。 これは単なる観光旅行ではなく、過去と現在が溶け合う時間的な体験です。 歴史に情熱を注ぐ方でも、単なる好奇心からでも、この城は稀有な深みを提供します。 真に王族的な体験を味わったという確信を持ち、現代の日常に戻った後も長く心に残る感動とともに帰途につく。